

観音さまは、男？ 女？

観音さまは諸仏のなかでも人気ナンバーワンです。ほとんどの仏教寺院に観音像が奉安されています。一般家庭にも観音像を飾っているところがあります。日常生活に観音さまがおられれば安心が得られるからです。市街地でも観音像を拝むことができます。観音さまの呼び名は、その地域の地名を冠して呼称されることが多く、市民に安寧を与えておられます。

このような観音信仰の形態は、日本だけではありません。インド、中国、タイでも同じことです。仏教寺院がある地域には、必ず観音さまが奉安されています。諸仏のなかで多種多様の造形になって広く信仰されているのは、ただ観世音菩薩のみです。

「観音さまのような人」といえば、こころやさしい女性を指します。観音さまの眼差しや、上品なお顔、柔らかな容姿に、美しい女性が思い浮かびます。観音像を彫刻するときは、中年の婦人をモデルにしているからです。

ところが、観音さまのルーツは、口髭をたくわえた古代インドの男性神です。悪魔を退治する勇猛な菩薩です。「アバロキテイシュバラ」と発音する「観世音」の原音が男性名詞であることからうかがわれます。現在でも観音さまの鼻の下にはうっすらと髭の痕跡があります。しかし、観音さまは男でも女でもありません。性を超越した仏格です。

手が千本、顔が十一面あるというあの奇異なお姿は、ヒンドゥー教のシバ神やヴィシュヌ神の形態とまったく同じです。その神々の持ち物や性格、信仰などが反映し、かつ発展した菩薩が変化観音です。聖観音をはじめ、千手観音、十一面観音、馬頭観音、如意輪観音、准胝観音、不空羅索観音、さらには白衣、楊柳、魚籃、水月、多羅、蛤蜊、子安観音などが造像されています。

さまざまな変化観音の尊容から、二千年前の仏教がインドの民衆のなかへ同化していこうとする巨大な信仰エネルギーを感じとることができます。それゆえに、『観音経』には信仰の悦びがわきあがるように、観音さまの不思議な力を現わした霊験が物語風に説かれています。

※ 「大観音金龍寺たより」は、これよりしばらく観音菩薩をテーマにして連載していきます。観音さまや信仰についてご質問があれば何でもお寄せください。このホームページでお答えさせていただきます。